

2014年度秋季講演会報告

2014年度日本惑星科学会秋季講演会実行委員長(東北大LOC) 中村 智樹¹

2014年9月24日から9月26日にかけて、東北大学片平キャンパスさくらホールにて日本惑星科学会2014年度秋季講演会が行われました。参加者は、222人(うち事前参加申込者190人、当日申込者32人)と前年を上回る多数の方にご参加頂くことができました。また、今年は学部生及び修士1年の非発表の学生を参加費無料としたところ12人の参加者がありました。今回、学生参加の敷居を下げたことは、一人でも多くの学生に惑星科学に触れてもらえる機会を提供できたので、参加者及び惑星科学会の双方に有益な制度であったと感じます。

また、今回の新たな試みとしては、予稿集の冊子体の販売を行わずに、WEB上でダウンロードして頂く形式にしたことです。特段問題は発生しませんでした。準備の際の手間を大幅に省くことができ、当日の販売作業も不要なので様々な面で効率化を図れたと感じました。

発表数は184件でした。口頭発表が100件、ポスター発表が78件、口頭発表とポスター発表の両方が義務付けられている最優秀発表賞のエントリー講演数6件です。二日目の総会にて、発表賞受賞者の表彰式が行われ、京都大学の松野淳也さんが受賞されました。また、総会後に最優秀研究者賞特別講演(東京工業大学 奥住聡さん)が行われました。

前年度同様、口頭発表の一人あたりの持ち時間は10分(質疑応答2分含む)としており、時間が押してしまう場面もありましたが、休憩時間などの調整により大幅な遅れや、最終日の最後のセッションの発表順変更を除き、プログラムの大きな変更はありませんでした。



図1: 秋季講演会会場: 片平キャンパスさくらホール。

た。

そして今回の開催場所である片平さくらホールは、東北大学の施設であり、東北大学理学研究科の共催を得られたことで、会場経費などは例年より削減することが出来ました。さくらホールは、多くの学会を開催している実績があるため、学会を行うための講演会場やポスター発表会場共に様々な設備が整っており、スムーズに会の進行を執り行うことが出来ました。講演会場は当初人数に対して、少し狭いのではないかと懸念がありましたが、実際は約200名を収容するのに丁度良い広さであり、スライドも見やすく講演者の声も届きやすく、皆様には講演に集中することのできる環境で拝聴頂けたかと思います。

懇親会は、さくらホール内で行いました。立食形式にし、参加者が多くの方々と交流を持てるような会となりました。今回は、東北大学のオーケストラ部の中選抜された4名に、カルテットを行って頂きました。BGMとして、参加された皆様の会話に華を添えることが出来たかと思います。また、東北は地酒が美味し

1. 東北大学理学研究科
aloc-m1@wakusei.jp



図2：ポスターセッションの様子。

いことでも有名ですので、厳選した地酒を用意させて頂きました。

学会開催の前日の2014年9月23日、東北大学片平キャンパスさくらホールにて一般向け公開講演会を開催しました。この公開講演会は、一般の方に惑星科学会の活動について知ってもらうために企画されたものです。会場のさくらホールには、事前申込180名と当日参加の20名強を合わせ、200名近くの来場者が集まりました。テーマは打ち上げ間近のはやぶさ2であり、題材や講演者の一般認知度からか、小学生のお子様を連れたご家族での参加も目立ちました。

講演会は國中均教授(はやぶさ2プロジェクトマネージャー・JAXA宇宙科学研究所)と渡邊誠一郎教授(はやぶさ2プロジェクトサイエンティスト・名古屋大学大学院環境学研究科)のお二人にご登壇頂きました。

一人目の講演者は國中先生で、テーマは「はやぶさ2が拓く宇宙探査」。大学の講義のような、参加者に話しかけるスタイルで行われました。ロケット開発の歴史からはじまり、イオンエンジンのしくみ、そしてはやぶさ2のミッションと未来図までお話されました。中でも、マイクロ波を使ったイオンエンジンをどのように実用可能にしたのかといった開発秘話は、初代はやぶさからエンジン開発に携わってこられた國中先生ならではの、臨場感あふれるものでした。

二人目の渡邊先生の講演テーマは「はやぶさ2」が探る惑星科学です。「小惑星からの惑星科学」をキーワードに、はやぶさ2のミッションのサイエンス的な意義についてお話をされました。はやぶさ2が目指す小惑星は、地球や月のように高温を経験し天体内部が



図3：一般向け公開講演会の様子。

溶融してしまったものとは違い、太陽系誕生のころやその後の進化の記録を持っていると考えられます。そのような情報を持つ小惑星からサンプルを持ち帰り、地球や太陽系の惑星の起源を探るという、研究の一つの大きな目的について語りました。

お二人の話に共通していたのは、10年20年後に最前線で活躍しているであろう若い世代に向けたメッセージでした。その頃には宇宙大航海時代となり、宇宙で我々が活動する、または宇宙をどうやって利用していくかを探索する時代になっているだろうと話し、将来を見据えて今から夢を持って頑張ってほしいと伝えました。

國中先生、渡邊先生、打ち上げが迫った時期に素晴らしい講演をくださり、誠にありがとうございました。11月のはやぶさ2の打ち上げとミッションの成功をお祈りいたします。

最後に、今回の秋季講演会を開催するに当たりまして、多くの皆様のご協力を頂きまして誠にありがとうございました。東北大LOC実行委員として裏方で準備や、当日の運営に携わって下さいました皆様、アルバイトでお手伝いをして下さった学生の皆様には深く感謝申し上げます。そして、本原稿の作成を補助していただいた東京工業大学地球生命研究所 米原様、多くの助言やご指南を頂いた行事部会や情報部会の皆様には、改めてこの場をお借りしまして、深く御礼申し上げます。